

カツオ 大西洋

Skipjack Katsuwonus pelamis



管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

生物学的特性

- 最大体長・体重：尾叉長 100 cm・15 kg
- 寿命：6 歳以上
- 性成熟年齢：満 1 歳ですべて成熟
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24℃以上の海域
- 索餌期・索餌場：熱帯～温帯域
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：マグロ・カジキ類、サメ類、海鳥類等

利用・用途

缶詰等の加工品

漁業の特徴

主要な漁業は、東部大西洋ではスペインのまき網、ガーナ、スペイン等の竿釣り、西部大西洋ではブラジル等の竿釣り、ベネズエラによるまき網である。ひき縄やはえ縄でもわずかに漁獲される。東部大西洋では、近年パナマの漁獲量が増加し、ポルトガルよりも多くなった。主な漁場は、アフリカ西岸ギニア湾の赤道を中心とした熱帯域～北西岸モーリタニア沖のまき網漁場と、ブラジル南東岸沖の竿釣り漁場である。まき網は、1991 年から人工浮き漁礁 (FAD) 操業が本格化し、漁獲量が増大した。日本は大西洋でカツオを主対象とした漁業を現在行っておらず、はえ縄で大型のカツオがわずかに混獲されるのみである。

漁獲の動向

年間漁獲量は 1960 年代には 4 千～5 万トン、1970 年代には 5 万～12 万トン、1980 年代には 11 万～16 万トンで推移した。まき網の FAD 操業開始により、1991 年 22 万トン、1993 年の 21 万トンがピークで、1995 年以降は 12 万～19 万トンで推移した。2011 年以降、漁獲量は 20 万トンを超えるようになり、2021 年には 21.3 万トンを記録した。日本は、1980 年代前半まで東部大西洋で竿釣り操業を行い、1976～1981 年には 1 万～2 万トンを漁獲したが、現在は行われていない。

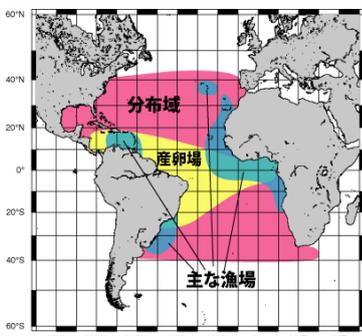
資源状態

2022 年 5 月に ICCAT の科学委員会 (SCRS) において資源評価が実施された。大西洋における本種の生物・漁業学的特徴を考慮して東部・西部大西洋の 2 海域に区分して資源評価を実施した。東部大西洋ではプロダクションモデル (JABBA) 及び齢構成モデル (SS3)、西部大西洋では SS3 を用いて資源評価を実施した。これらのモデルから東部大西洋では B_{2020}/B_{MSY} の中央値は 1.60 (0.50～5.79)、 MSY が 216,617 トン、 F_{2020}/F_{MSY} の中央値は 0.63 (0.18～2.35) となり、資源状態は乱獲状態でもなく過剰漁獲でもない判断された。西部大西洋では B_{2020}/B_{MSY} の中央値は 1.60 (0.90～2.87)、 MSY が 35,277 トン、 F_{2020}/F_{MSY} の中央値は 0.41 (0.19～0.89) となり、資源状態は乱獲状態でもなく過剰漁獲でもない判断された。

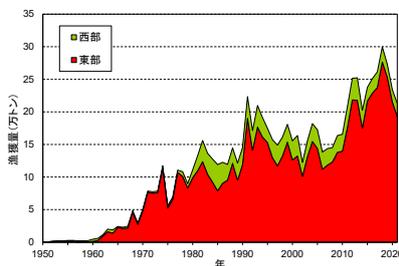
管理方策

2014 年 11 月の ICCAT 年次会合において、データ不足に起因する資源評価の不確実性が SCRS から指摘されていることを踏まえ、既存の熱帯まぐろ保存管理措置に含める形で、管理方策が初めて設定されることとなった。それにより、カツオを漁獲する漁船の ICCAT への登録、FAD 操業の禁漁区・禁漁期等が設定されることとなった。FAD 操業の禁漁区・禁漁期は新たなものが 2015 年に決定、2016 年に発行され、2017 年より適用され 1～2 月においてアフリカ沿岸域～西経 20 度、南緯 4 度～北緯 5 度の範囲となっている。2019 年の ICCAT 年次会合において、熱帯まぐろ保存管理措置が改定され、2020 年には 1～2 月の 2 か月間、2021 年には 1～3 月の 3 か月間、大西洋全体において FAD 操業の禁止を決定した。FAD 数は、1 隻当たり一度に 350 基 (2020 年) 及び 300 基 (2021 年) までとなった。2021 年の ICCAT 年次会合において、熱帯まぐろ保存管理措置が一部改定され、2022 年においては 1 月 1 日～3 月 13 日の 72 日間の FAD 禁漁を決定した。2023 年についても 2022 年の FAD 禁漁措置がそのまま適用される。

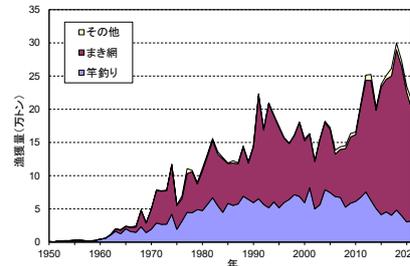
カツオ（大西洋）の資源の現況（要約表）	
資源水準	中位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近5年間)	21.3万~30.0万トン 最近(2021)年: 21.3万トン 平均: 25.6万トン(2017~2021年)
我が国の漁獲量 (最近5年間)	1.1~4.8トン 最近(2021)年: 3.2トン 平均: 2.7トン(2017~2021年)
管理目標	MSY(216,617トン(東部))、MSY(35,277トン(西部))
資源評価の方法	プロダクションモデル(JABBA)、齢構成モデル(SS3)
資源の状態	悪化の兆候は認められない
管理措置	漁船登録 FAD操業の禁漁区・禁漁期、FAD数制限
最新の資源評価年	2022年
次回の資源評価年	2025年



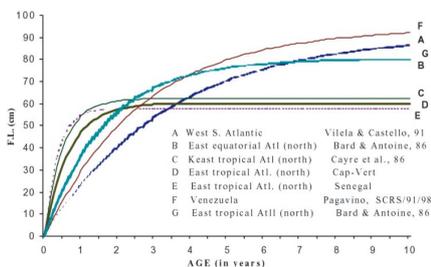
大西洋のカツオの分布域、産卵場及び主な漁場



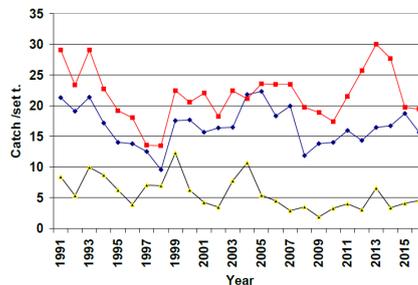
大西洋におけるカツオの海域別漁獲量の推移(1950~2021年)



大西洋におけるカツオの漁法別漁獲量の推移(1950~2021年)

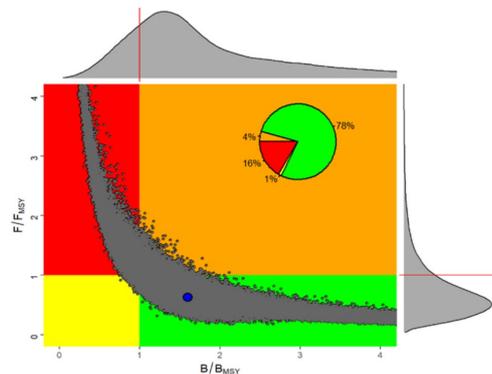


大西洋のカツオの成長曲線
A~Gの曲線は各海域で報告されたカツオの成長を示す。

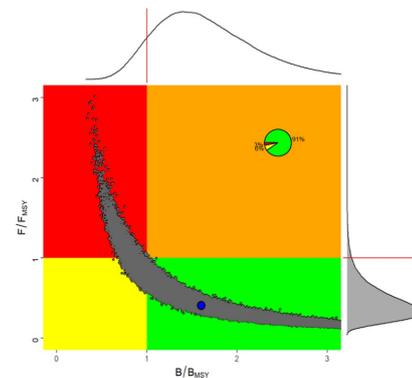


東部大西洋におけるまき網によるカツオ漁獲量(1操業あたり漁獲量)の推移(1991~2016年)

France FADs: フランスのまき網船・FAD操業、Spain FADs: スペイン・その他のまき網によるFAD操業、Free schools all PS: まき網による素群れ操業。



東部大西洋のカツオにおける最新年(2020年)のB/B_{MSY}とF/F_{MSY}の水準
青丸は中央値を表す。



西部大西洋のカツオにおける最新年(2020年)のB/B_{MSY}とF/F_{MSY}の水準
青丸は中央値を表す。